

2025年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：財務会計論特論	
担当教員名：金子輝雄	
授業科目概要： 企業会計制度を研究する場合、まず、企業をどのように捉えるかという問題がある。従来は、新自由主義経済思想の影響もあって、投資の対象としての企業という見方が大勢であった。企業を規制するというよりはむしろ、環境を整備し、企業の成長発展を支援し、その波及効果で庶民にも恩恵がもたらされると説かれてきた。しかしながら、例えば雇用調整を意図した非正規雇用の拡大が日本経済に長期的な低迷をもたらしたのではないだろうか。企業会計もこれまでのような株主・投資家のための資本利益計算の会計から、SDGsを取り入れた新たな会計モデルに移行しなければならない時期が到来している。この新しい会計モデルでは、企業は、地域社会、自然環境、労働者等のステークホルダーの中心に据えられ、社会的付加価値の生産の場として位置づけられ、そこでの会計は損益の測定から付加価値の算出・分配のためのシステムとして理解されることになる。つまり、資本のための会計から人間のための会計へと移行するのである。本講義では、このような新しい会計モデルを取り上げて検討する予定である。また、新しい会計モデルに依拠する所得課税制度についても議論したい。すなわち、キャッシュ・フロー法人税や受取配当金の益金不算入制度の廃止による経済的影響などについてである。	
履修上の留意事項： 討論テーマについて毎回、予習していただきたい。統計的手法を使った実証研究は行わない。	
教科書・参考書（参考文献）	
書名：最新の収益認識会計 著者／編者：岩崎勇 出版社：税務経理協会 出版年：2024年	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
評価方法及び評価基準：授業での質疑応答50% 課題レポート50% 60点未満を F、60～69点を C、70～79点を B、80点以上を A とする4段階とし、C以上の評価に単位を与える。 A 評価 授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること B 評価 授業内容の理解に基づいて、より広いケースにその理解を応用できること C 評価 授業内容について、概ね理解していること	
授業目標及び進め方： 目標：現代財務会計制度および所得課税制度の問題点を考える。 進め方：上記文献を輪読する形で、毎回、テーマごとに討論を行う。また、受講生の研究テーマに合わせて、講義内容を若干、変更してもよいと考えている。確定決算基準の問題にあるように、今後、税と会計の関係は重要な検討課題になってくる。	

第 1 回	テーマ：収益認識の現代的意義 内 容： 教科書 / 参考書 第1章
第 2 回	テーマ：発生主義会計と収益認識基準の関係 内 容： 教科書 / 参考書 第 2 章
第 3 回	テーマ：資産負債アプローチから見た収益認識基準 内 容： 教科書 / 参考書 第 3 章
第 4 回	テーマ：IABS概念フレームワークとの相互関係 内 容： 教科書 / 参考書 第 4 章
第 5 回	テーマ：IFRS15号とIASB概念フレームワーク 内 容： 教科書 / 参考書 第 5 章
第 6 回	テーマ：わが国の収益認識基準と概念フレーム枠の可変性 内 容： 教科書 / 参考書 第 6 章
第 7 回	テーマ：ASBJ収益認識基準と概念フレームワークの指導原理性 内 容： 教科書 / 参考書 第 7 章
第 8 回	テーマ：収益認識基準のコンバージェンス 内 容： 教科書 / 参考書 第 8 章
第 9 回	テーマ：FASBおよびIASBの収益認識基準設定過程の分析 内 容： 教科書 / 参考書 第 9 章
第10回	テーマ：わが国の理論及び実務への影響 内 容： 教科書 / 参考書 第10章
第11回	テーマ：変動対価における収益認識 内 容： 教科書 / 参考書 第11章
第12回	テーマ：返品権付販売における収益認識 内 容： 教科書 / 参考書 第12章
第13回	テーマ：ポイント制度における収益認識 内 容： 教科書 / 参考書 第13章
第14回	テーマ 本人と代理人を巡る収益認識 内 容： 教科書 / 参考書 第14章
第15回	テーマ：有償支給取引における収益認識 内 容： 教科書 / 参考書 第15章